p9 特集：ナショナル・レジリエンス

注目が集まる ナショナル・レジリエンスと ユアサ商事が提案する “企業防災”

YUASA REPORT

135

第135期
2013年4月 1 日から
2013年9月30日まで

Contents

1 ユアサ商事グループのビジネスフィールド
3 株主の皆さまへ
5 セグメント別の概況
6 決算ハイライト
7 「NEXTAGE 2014」目標達成に向け、ラストスパート
11 「ユアサ商事平生メガソーラーパーク」の今に迫る
13 主要連結財務データ
14 会社概要／株式情報

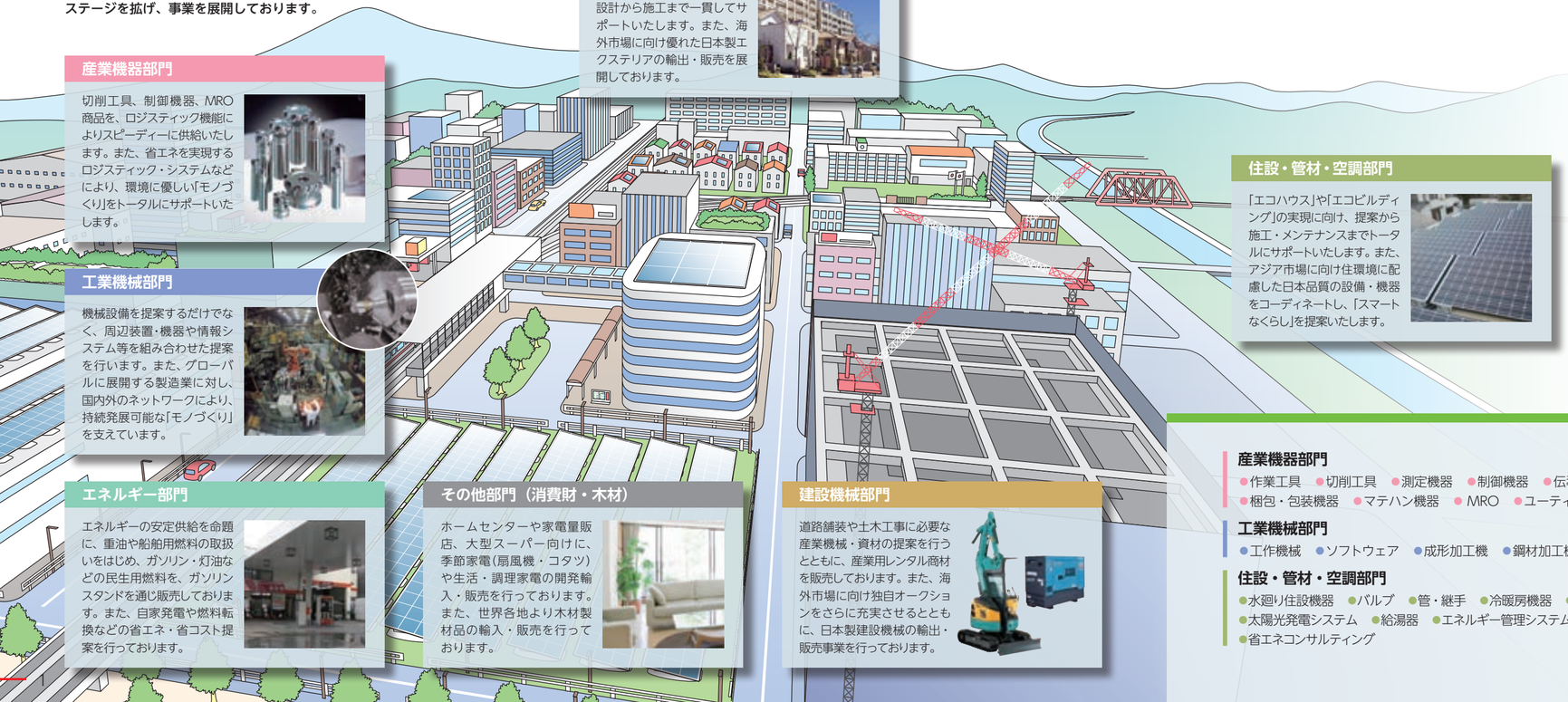
YUASA ユアサ商事株式会社

証券コード：8074

ユアサ商事グループの
ビジネスフィールド

ユアサ商事グループは日本からアジアへ、アジア　から日本へ、「産業とくらし」を未来につなぎます。

ユアサ商事は、創業以来347年の長い歴史を積み重ね、
機械と住宅の専門商社として『産業とくらし』の発展に貢献してまいりました。
現在は「海外」「環境」「消費財」を成長ドライバーとし、
日本から「アジアの『産業とくらし』に貢献する商社」へと
ステージを拡げ、事業を展開しております。



産業機器部門

切削工具、制御機器、MRO商品を、ロジスティック機能によりスピーディーに供給いたします。また、省エネを実現するロジスティック・システムなどにより、環境に優しい「モノづくり」をトータルにサポートいたします。

工業機械部門

機械設備を提案するだけでなく、周辺装置・機器や情報システム等を組み合わせた提案を行います。また、グローバルに展開する製造業に対し、国内外のネットワークにより、持続発展可能な「モノづくり」を支えています。

エネルギー部門

エネルギーの安定供給を命題に、重油や船舶用燃料の取扱いをはじめ、ガソリン・灯油などの民生用燃料を、ガソリンスタンドを通じ販売しております。また、自家発電や燃料転換などの省エネ・省コスト提案を行っております。

建築・エクステリア部門

ビルや戸建・マンション向けの建築資材や公園や道路・橋梁向けの景観・土木資材を設計から施工まで一貫してサポートいたします。また、海外市場に向け優れた日本製エクステリアの輸出・販売を展開しております。

住設・管材・空調部門

「エコハウス」や「エコビルディング」の実現に向け、提案から施工・メンテナンスまでトータルにサポートいたします。また、アジア市場に向け住環境に配慮した日本品質の設備・機器をコーディネートし、「スマートなくらし」を提案いたします。

その他部門（消費財・木材）

ホームセンターや家電量販店、大型スーパー向けに、季節家電（扇風機・コタツ）や生活・調理家電の開発輸入・販売を行っております。また、世界各地より木材製材品の輸入・販売を行っております。

建設機械部門

道路舗装や土木工事に必要な産業機械・資材の提案を行うとともに、産業用レンタル商材を販売しております。また、海外市場に向け独自オークションをさらに充実させるとともに、日本製建設機械の輸出・販売事業を行っております。

災害に備える強くてしなやかな国づくりに向けて

国土強靭化に向けて

東日本大震災以降、企業や自治体を中心に有事に備えた「防災備蓄倉庫」の設置が進んでおりますが、この度グループ会社ユアサマクロス（株）製の防災備蓄倉庫が、日本赤十字社様を通じ宮城県、福島県、岩手県の公共施設に採用されました。
本事業を契機に「国土強靭化」への対応を新事業のひとつとして捉え、今後、企業や自治体に対する防災・減災に関連するシステム提案を展開してまいります。

特集「防災備蓄倉庫」については P.9へ

産業機器部門
●作業工具　●切削工具　●測定機器　●制御機器　●伝導機器　●ロボット
●梱包・包装機器　●マテハン機器　●MRO　●ユーティリティ機器

工業機械部門
●工作機械　●ソフトウェア　●成形加工機　●鋼材加工機　●鍛圧・板金

住設・管材・空調部門
●水廻り住設機器　●バルブ　●管・継手　●冷暖房機器　●ポンプ　●照明
●太陽光発電システム　●給湯器　●エネルギー管理システム
●省エネコンサルティング

建築・エクステリア部門
●エクステリア　●外構資材　●金属建材　●建築金物　●土木道路資材　●景観資材

建設機械部門
●土木・建築道路機械　●動力源　●溶接機　●発電機　●コンプレッサー
●建設小型機器　●水中ポンプ　●高所作業車　●仮設ハウス

エネルギー部門
●石油製品　●民生用燃料　●船舶用燃料　●産業用燃料

その他部門
●扇風機　●加湿器　●コタツ　●調理家電　●木材製品

中期経営計画 NEXTAGE 2014 最終年度へ。目標達成に向け、邁進（まいしん）いたします。

代表取締役社長
佐藤悦郎

2014年3月期第2四半期　経営成績

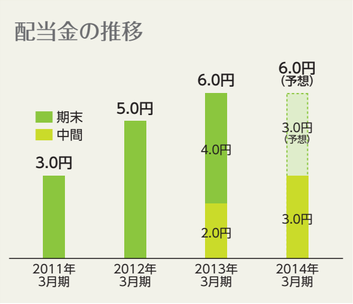
売上高	196,018百万円	前年同期比 1.9%増
営業利益	3,434百万円	前年同期比 6.2%増
経常利益	3,507百万円	前年同期比 1.0%増
四半期純利益	2,051百万円	前年同期比 0.5%減

中期経営計画「NEXTAGE2014」の達成に向けて

当第2四半期（2013年4月1日から2013年9月30日まで）は、中期経営計画「NEXTAGE2014」の最終年度として、計画の達成に向け、成長分野である「海外事業」「環境事業」「消費財事業」の開拓と、それらを支える「コア事業の収益拡大」「経営基盤の強化」に全社一丸となって取り組みました。

この結果、当第2四半期の売上高は前年同四半期比1.9％増の1,960億18百万円となりました。利益面につきましては、営業利益が34億34百万円（前年同四半期比6.2％増）、経常利益が35億7百万円（前年同四半期比1.0％増）、当四半期純利益は20億51百万円（前年同四半期比0.5％減）となりました。

2014年3月期の中間配当金につきましては、期初の予定どおり1株当たり3円とさせていただきました。期末配当金につきましても1株当たり3円を予定しており、中間配当金を含めた年間の配当金は前期と同額の1株当たり6円を予定しております。今後も安定的・継続的な配当実現に向け全力を尽くしてまいります。



「成長分野の開拓」と「コア事業の収益拡大」

今期（2013年4月1日から2014年3月31日まで）は中期経営計画「NEXTAGE2014」の最終年度に当たり業績計画の達成とさらなる競争力の強化に邁進してまいります。

成長分野の開拓として、海外事業では、2013年8月に日系企業の進出が著しいメキシコに現地法人を設立し、好調な北米市場での自動車関連産業への営業力を強化いたしております。また、生産財に加えて建設財の海外販売の強化策につきましても様々な分野でチャレンジしております。環境事業では、産業用省エネ機器、空調機器や給湯器などの住宅用省エネ機器及び、住宅用・産業用太陽光発電システムの販売に注力し、太陽光発電システムの販売は大幅に伸長いたしました。消費財事業では、季節家電や調理・生活家電に加え、伸長しておりますECサイト販売への取り組み強化を行ってまいりました。

また、コア事業の収益拡大として、ロジスティック機能やエンジニアリング機能、施工力の強化と、産業とくらしの展示会「グランドフェア」Pickup!（2013年は関東・関西・中部・東北・九州の5カ所で開催）の実施による競争力の強化を行ってまいりました。この結果、建設分野のコア事業である「住宅・管材・空調部門」「建築・エクステリア部門」「建設機械部門」は、市況の回復もあり増収基調となりました。工業分野におきましても、回復基調が鮮明になってまいりました。今後も収益拡大に取り組んでまいります。

新分野に向けた取り組み

建設分野の収益拡大をさらに進めるために、今後「防災・減災」や「BCP（Business Continuity Plan）対策」を切り口にした「国土強靭化対応戦略」を推進してまいります。現在、推進しております自治体や企業向けの「防災備蓄倉庫」Pickup!の販売事業において、グループ会社製の防災備蓄倉庫が、日本赤十字社様を通じ東日本大震災被災3県の公民館や学校などの公共施設432カ所に採用されました。

現在、政府が推進しております「国土強靭化計画」において、今後、首都直下型地震や南海トラフ巨大地震を想定した社会インフラ投資が自治体・企業を問わず急速に進むと考えられます。当社グループは、国土強靭化構想への対応を事業の一つとして捉え、今後、自治体や企業に対し、防災・減災やBCPに関する商品・サービスのシステム提案をグループ全社を挙げて展開してまいります。

株主の皆さまにおかれましては、何卒相変わりませぬご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申しあげます。

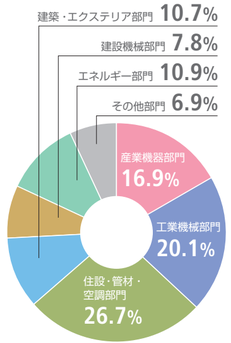
Pickup!

グランドフェア
詳しくはP.12に特集を掲載。

防災備蓄倉庫
詳しくはP.9～P.10に特集を掲載。

セグメント別の概況

セグメント別売上高構成比



産業機器部門

売上高 **330億60百万円** 前年同期比 3.2%減

- 第2四半期に入り、月を追う毎に自動車や航空機関連産業を中心に工場稼働率が上昇し、切削工具や超硬工具、測定器具などの需要が回復。
- 環境・省エネ、安全に配慮した取扱商品の拡充と販売強化。
- 食品産業向けマテハン関連機器の拡販とユアサ電子商取引システムに連携したロジスティック機能を強化。

工業機械部門

売上高 **394億54百万円** 前年同期比 11.8%減

- 第1四半期は前年の国内外の需要低迷により大幅な減収。
- 第2四半期より北米の自動車関連産業の堅調な需要と日系企業のタイ・インドネシアへの進出増加や国内における補助金制度の効果により、国内外の工作機械の受注状況が大幅に好転。
- 好況業種や堅調な自動車産業向けの工作機械販売に注力。
- 工場における「環境・省エネ・省コスト」の提案営業力の強化や補助金制度の活用、海外市場の営業基盤強化。

住設・管材・空調部門

売上高 **523億57百万円** 前年同期比 9.9%増

- 太陽光発電システムの底堅い需要拡大と新設住宅着工戸数の増加がみられ、オフィスビル、物流施設などの民間設備投資需要も堅調に推移。
- 「環境・省エネ・省コスト」のパッケージ提案を推進。
- 住宅設備機器をはじめ省エネ型空調機器や太陽光発電システム・蓄電池の拡販などに注力。

建築・エクステリア部門

売上高 **209億10百万円** 前年同期比 5.2%増

- 公共工事の増加に伴い、道路土木関連資材の需要も緩やかに回復。
- 住宅用エクステリア資材やビル用建材などの民間建設需要も引き続き堅調に推移。
- 太陽光発電施設向けの外周フェンスや景観エクステリア資材、防災関連資材などを販売強化。

建設機械部門

売上高 **152億67百万円** 前年同期比 2.4%増

- 震災復興工事や災害復旧、インフラ改修工事の増加や民間建設需要の増加により、レンタル業者を中心に建設機械需要が増加。
- 「安全・省エネ・省コスト」を切り口に、ミニショベル・ローラーなどの土木・舗装機械や防災備蓄倉庫、情報化施工向け測量機器などを拡販。
- アジア新興国向け建設機械の販売や中古建設機械オークション事業などに注力。

エネルギー部門

売上高 **213億53百万円** 前年同期比 19.0%増

- 低燃費車の普及などによりガソリン・軽油などの需要の低迷により、原油価格の上昇と価格競争が激化。
- 軽油・潤滑油等の販売強化と新規顧客開拓。
- グループ会社ユアサ燃料㈱の売上増。

その他部門（消費財・木材）

売上高 **136億15百万円** 前年同期比 3.9%増

- 消費財事業において、プライベートブランドの商品ラインナップ強化に取り組むとともに、調理・生活家電を拡販。
- 「ユアサeネットショップ」など伸長しているECサイトを拡充。
- 木材事業において、新設住宅着工戸数の増加と住宅リフォーム需要の拡大などにより木材製品やフロア台板が堅調に推移する中、木枠梱包材の販売強化。

決算ハイライト

2014年度第2四半期決算のポイント

Point 1

工業分野である産業機器部門、工業機械部門を除く全ての部門が増収となり全体の売上高は増収となりました。

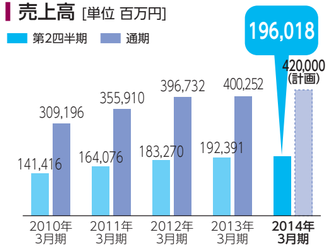
Point 2

税金等調整前の利益は増益となりましたが、法人税の負担が多くなり少数株主利益を差し引いた四半期純利益は0.5%の減益となりましたものの、営業利益・経常利益ともに増益となりました。

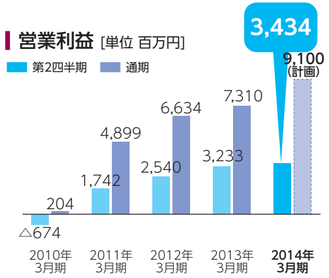
Point 3

中期経営計画の主要経営指標である自己資本比率20%以上については、参考値ながら当第2四半期において22%となり、当期末における目標達成に近づきました。

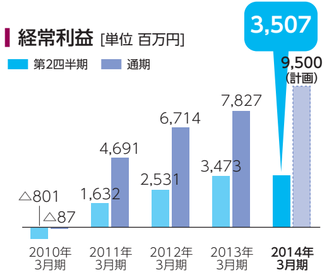
売上高 [単位 百万円]



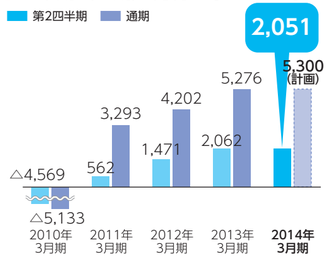
営業利益 [単位 百万円]



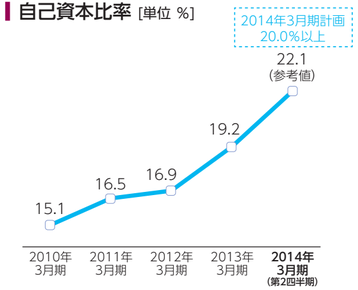
経常利益 [単位 百万円]

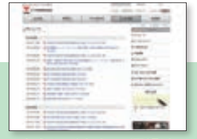


四半期（当期）純利益 [単位 百万円]



自己資本比率 [単位 %]





さらにくわしい情報は
当社 IR サイトをご覧ください。

ユアサ商事 IR　検索

http://www.yuasa.co.jp/ir/index.html

中期経営計画「NEXTAGE 2014」目標達成に向け、ラストスパート

日本から「アジアの『産業とくらし』に貢献する商社」へとステージを拡げ、あらゆる事業部門において業界No.1の競争優位を確立します。

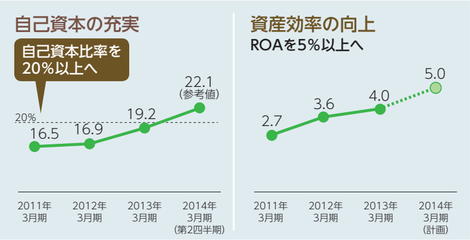
NEXTAGE2014基本方針

海外事業・環境事業・消費財事業を成長ドライバーに成長分野を開拓しつつ、既存コア事業の一層の機能強化や収益力強化を行います。また経営基盤として「組織力・情報力・人材力」を強化してまいります。

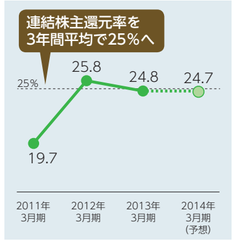
連結定量目標 (単位：百万円)

	2011年3月期 実績	2012年3月期 実績	2013年3月期 実績	2014年3月期 (第2四半期) 実績	2014年3月期 計画
売上高	355,910	396,732	400,252	196,018	420,000
営業利益	4,899	6,634	7,310	3,434	9,100
経常利益	4,691	6,714	7,827	3,507	9,500
当期(四半期)純利益	3,293	4,202	5,276	2,051	5,300

主要経営指標 (単位：%)



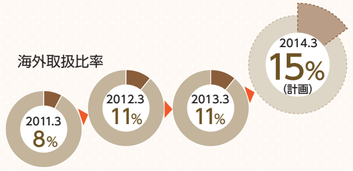
株主還元の充実 (単位：%)

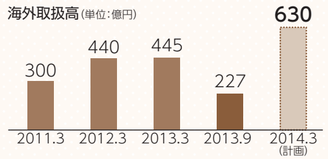


成長分野の開拓

海外事業戦略

当期については、業容が拡大しておりますタイの現地法人を連結に含めるとともに、8月には日系企業の進出が著しいメキシコへの現地法人を設立し、現在好調な北米市場における自動車関連産業への営業力を強化しております。加えて、建機部門や住宅・管材・空調部門の海外取扱高も着実に増加しております。



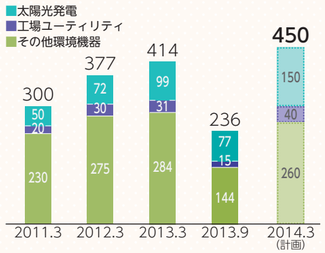


環境事業戦略

空調機器や給湯器などの家庭用省エネ機器が堅調に推移したのに加え、太陽光発電システムの売上高が大きく伸長いたしました。

メガソーラーにつきましては、山口県にございます自社プラント「ユアサ商事平生メガソーラーパーク」が今年7月に稼働したのに続き、現在北海道釧路市において約800kWのテストプラントを建設中です。

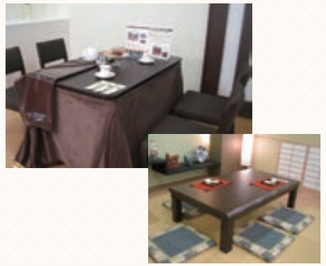
テストプラント「ユアサ商事平生メガソーラーパーク」では実発電量や経年変化などについての分析・検証を行います。

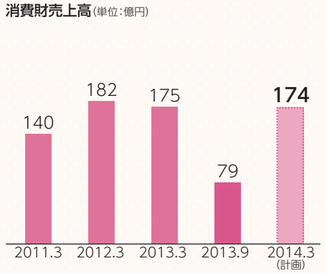


消費財事業戦略

新ブランド「YUASA 1+」(ユアサワンプラス)によるDC扇風機をはじめ、自社ブランドによる季節家電の販売に注力したものの、震災特需の反動や円安による調達コスト上昇の影響を受けました。

後半期は、調理・生活家電など通年商品の販売強化に加え、伸長しておりますECサイトでの販売についても商品アイテム数を拡大してまいります。





経営基盤の強化

海外トレーニー制度を推進 若手社員を海外拠点へ

経営基盤の強化の一環として、「海外トレーニー制度」「環境インストラクター制度」等を通じ、成長戦略を担う人材を計画的に育成しております。「海外トレーニー制度」については、海外勤務を希望する20代後半の社員を毎年選抜の上、当社の海外事業所に1年間派遣しております。「環境インストラクター制度」では、各部門ごとに、環境・省エネ・省コスト事業を推進する専門家を育成しており、節電・省エネ提案や産業用ソーラー提案を強化しております。

海外で実務研修を行う
海外トレーニー制度

注目が集まるナショナル・レジリエンスとユアサ商事が提案する“企業防災”

昨今、「ナショナル・レジリエンス(国土強靭化)」に注目が集まっています。
当社では有事だけでなく平時にも活用可能な「防災備蓄倉庫」を展開するとともに、当第2四半期に実施したグランドフェアでは新たに「防災コーナー」も設けました。
ユアサ商事グループの考えるナショナル・レジリエンスについてご紹介いたします。

Key Word

ナショナル・レジリエンス

東日本大震災の教訓をふまえ、危機を突破するレジリエンス(強靭性)をALL JAPANで手に入れるための「新しい国づくりの姿」を指します。

旧来型の大規模な公共事業ではなく、バランスのとれた投資を通じて平時と有事の「国民生活」「ひと」「産業」の強靭化を目指します。

免疫力の向上
平時には、競争力強化と国民の幸せに貢献

＋

回復力の向上
有事には、被害を最小限にスピーディーに回復

有事だけでなく平時にも活躍する、レジリエンス時代の防災備蓄倉庫。

Point 1 堅牢性

1m以上の積雪や地震による強い揺れから備蓄品をしっかりと守ります。錆にも強く、長期間の屋外での設置も安心です。

Point 2 機動性

組み立て作業は不要で、設置完了までわずか1時間弱。有事の際にトラックで近隣地域から移動させることで、短時間で被災地に設置可能です。

Point 3 断熱性・安心性

明るく清潔な白い内装のため、少量のLED照明で安心感を提供可能。断熱性と気密性に優れ、災害発生時には救護室や女性用トイレとしても二次利用できます。

ユアサ商事グループの展開する「防災備蓄倉庫 MFシリーズ」は、新潟中越沖地震後、被災地に約300棟、日本赤十字社様の採用により、東日本大震災関連で約430棟を納入いたしました。

防災パッケージ商品ラインナップ

防災備蓄倉庫の設置と併せて用意する備蓄品は企業規模や優先レベルによってさまざまです。
ユアサ商事グループでは、工場・ビル・学校などのさまざまなシーンと状況に応じて、防災パッケージ商品のラインナップをご用意しています。

	復旧補助	電力確保	帰宅困難・安全確保	平時
優先レベル 高	●ヘルメット ●コードリール ●投光器 ●ポータブル投光器 ●LEDランタン ●懐中電灯	●発電機	●トランシーバー ●簡易トイレ ●組立式トイレ ●浄水器 ●ガスコンロ ●カセットボンベ	●飲料水
優先レベル 中	●軍手 ●リヤカー ●消火器 ●土嚢 ●水中ポンプ ●送水ホース ●担架 ●工具箱	●蓄電池 ●太陽光発電 ●ホームタンク	●テント ●防災毛布 ●レスキューシート ●AED ●防災伝言シート	

導入事例

岩手県宮古市に66棟の防災備蓄倉庫が納入されました。

—安心・安全な街づくりに向けて—

建物の脇などに設置されることが多い防災備蓄倉庫を同市ではよく目につく場所に設置しています。日常の目に止まる場所に設置することで、地域住民の防災意識を高め、また地域の防災塔としての役割も担っています。

宮古市役所
危機管理課 主任
佐々木 暢(さささきみつる) 様

この度の事業にて、市内の学校や住宅地などに66棟の「防災備蓄倉庫」を設置しました。いつ来るか分からない地震や津波ですが、来ることを想定した備えとして「備蓄」の必要性を見直し、倉庫の中に備蓄しておく商品の取捨選択は「衣食住」「電力」「光」「通信」の4つの視点で優先度をつけて行っています。

何十年も使うものですから、地域の方に安心・安全をもたらすものを選ばなくてはいけません。ユアサマクロスさんの倉庫の堅牢性は新潟の豪雪地に導入されていた事例からも信頼性が高いです。

引き続き市としての防災対策を行ってまいりますが、今後の街づくりについては、今まで以上に民間企業、住民の方々と共に取り組んでまいりたいと思います。公助・共助・自助という言葉がありますが、それぞれの立場で役割を果たし、安心・安全に暮らせる街づくりを行っていきたいです。

もっと知りたい! 防災備蓄倉庫のレジリエンス商品としての可能性は？

防災備蓄倉庫は、有事の際に人々の安心と安全を確保することが大前提ですが、これからのレジリエンス時代にはそれだけではなく平時にも人・地域・産業を活性化するためのイノベーティブな機能を兼ね備えることが求められます。

平時
レジリエンス防災備蓄倉庫としての可能性

有事
トランスフォーム型防災備蓄倉庫としての可能性

環境商品として
ソーラー発電式灯台型防災倉庫
ソーラーパネルとLED照明を搭載することで、有事の際に一番欲しい“明かり”を提供し安心感を与えます。

二次利用商品として
女性用トイレ・救護室対応防災倉庫
有事の際のプライベートな場所として、女性用トイレや救護室として活用することができます。

企業イメージアップ商品として
ラッピング防災倉庫
平時には、倉庫側面に企業の広告をラッピング表示することもできます。

太陽光発電システム導入を
ご検討されている皆さまに向けたモデルプラント

「ユアサ商事平生メガソーラーパーク」の今に迫る

市場拡大が続いている太陽光発電事業は、今後エネルギー・レジリエンスとしての役割を担う事業としても注目されています。2013年7月に発電を開始した太陽光発電のモデルプラント「ユアサ商事平生メガソーラーパーク」は、太陽光発電システムの導入をご検討されているお客さまに、実発電量に基づく有益な情報をご提供しております。

「ユアサ商事平生メガソーラーパーク」建設の目的と今後の運用

1. 海に面した過酷な環境で20年間の発電事業を行うことで、経年劣化によるモジュールやシステム機器への影響について評価・分析を行います。
2. 国内外3社のモジュール(多結晶・CIS)を採用し、実発電量を測定することで、朝・夕の発電量の変化や、経年劣化による実発電量の調査を行います。
3. 遊休地を活用した太陽光発電普及に伴うセキュリティ対策や、メンテナンスコスト低減に向けた防草対策のため、必要な建設資材(防犯フェンス、防草資材等)を採用し、その効果について検証します。

What's エネルギー・レジリエンス

ナショナル・レジリエンスの構成要素の一つであり、エネルギーの安定供給、非常時におけるエネルギー供給の確保、地球温暖化等の環境問題との調和等、エネルギーに関するレジリエンスをどのように高めていくかに注目が集まっています。

「ユアサ商事平生メガソーラーパーク」のパフォーマンスに迫る

7月の発電量は、投資回収が当初予想よりも早まりそうな結果に――

ユアサ商事平生メガソーラーパークは7月に発電を開始いたしました。3社のモジュールの実発電量を計測・検証した結果を一部ご紹介いたします。

発電開始の7月19日～8月18日の1カ月間は、発電所全体では当初予想比で116.6%の実績となりました。メーカーやNEDOのデータをもとに立てられた予想発電量は各項目ともに安全率をみているため、実際の投資回収は当初予想の7.2年よりも早まる可能性を示す結果になりました。発電開始後数日間は天候にも恵まれ、予想比150%近く発電する日も続きました。一方、8月19日～9月18日の1カ月間は、台風の影響で雨天が多かったため、発電量は伸び悩み、予想比97.5%という結果になりました。

「ユアサ商事平生メガソーラーパーク」の見学会を実施

2013年10月以降、全国のお取引先を対象に「ユアサ商事平生メガソーラーパーク」の見学会を実施しています。

見学会に参加されたお客様からは、「初めてメガソーラーパークを間近で見ることができました。ユアサ商事の太陽光発電ビジネスの考え方についてもよく理解できました」「ずっと使っていなかった遊休地がある。早速、見積もりを出してもらうように先ほどお願いしました」といった声をいただき、当社グループの太陽光発電ビジネスについてご理解いただく大変有意義な見学会となっております。

Topics 産業とくらしのグランドフェア2013を開催！

産業とくらしのグランドフェアは、当社の販売先様の会である「やまずみ会」が主催し、当社の仕入先様の会である「炭協会」が協賛で開催される展示会で、今回が36回目となります。関東、東北、中部、九州、関西の5カ所で2013年7月から9月まで実施いたしました。今回のグランドフェアでは「Smart Eco Challenge! ―技術と人で、『新イノベーション』を創ります。」をテーマにとし、受注高993億円、来場者実績55,945名と当初の目標を上回る結果となりました。グランドフェア2013の概要は次のとおりです。

グランドフェア2013の概要

(1) 開催概要

テーマ：Smart Eco Challenge！
― 技術と人で、「新イノベーション」を創ります。

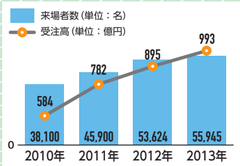
(2) 本年度実施した内容

❶ Smart ECO ゾーンの設置：「Smart ファクトリー」「Smart ハウス」「Smart インフラ」を設け、各シーンに合わせた最適な節電・省エネプランをご提案いたしました。

❷ 再生可能エネルギーの拡大に向けた提案展示：「遊休地・遊休スペースを活用した産業用ソーラー」のご提案として、「ユアサ商事平生メガソーラーパーク」の取り組みについてご紹介するとともに、産業用太陽光発電システム導入のメリットについて特別講演を行いました。

❸ 復興・防災対策についての提案展示：本年度より会場内に新たに「防災コーナー」を設置し、防災備蓄倉庫や非常用発電機等の防災商品をご提案いたしました。また、政府が推進する強くてしなやかな国づくりを目指す「国土強靭化（ナショナル・レジリエンス）」をテーマに特別講演を行いました。

来場者と受注高の推移



※2010年は、関東・中部・関西の3拠点での開催。
※2011年は、関東・中部・九州・関西の4拠点での開催。
※2012年・2013年は、関東・東北・中部・九州・関西の5拠点での開催。

主要連結財務データ

科　目	2012年3月期		2013年3月期		2014年3月期	
	第2四半期	通期	第2四半期	通期	第2四半期	通期（計画）
経営成績（百万円）						
売上高	183,270	396,732	192,391	400,252	196,018	420,000
営業利益	2,540	6,634	3,233	7,310	3,434	9,100
経常利益	2,531	6,714	3,473	7,827	3,507	9,500
当期（四半期）純利益	1,471	4,202	2,062	5,276	2,051	5,300
財務状況（百万円）						
総資産	174,461	195,440	186,184	196,740	181,212	—
純資産	30,978	33,821	34,471	38,669	41,039	—
キャッシュ・フロー（百万円）						
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,714	11,602	43	5,729	1,073	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 372	△ 724	△ 2,218	△ 3,329	298	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 4,993	△ 6,440	△ 2,825	△ 4,323	△4,843	—
現金及び現金同等物の期末残高	23,398	30,447	25,513	28,696	26,182	—
1株当たりデータ（円）						
1株当たり当期（四半期）純利益	6.79	19.37	9.47	24.21	9.39	24.25
1株当たり純資産	—	151.91	—	172.81	—	—
1株当たり配当金	0.0	（年間）5.0	（中間）2.0	（年間）6.0	（中間）3.0	（年間）6.0
主要経営指標（%）						
総資産経常利益率（ROA）	—	3.6	—	4.0	—	5.0
自己資本当期純利益率（ROE）	—	13.5	—	14.9	—	—
自己資本比率	17.2	16.9	18.0	19.2	22.1	—
配当性向	—	25.8	—	24.8	—	24.7

会社概要／株式情報 (2013年9月30日現在)

会社概要

商　　号　ユアサ商事株式会社
　　YUASA TRADING CO.,LTD.
本　　社　東京都中央区
　　日本橋大伝馬町13番10号
創　　業　1666年（寛文6年）3月
設　　立　1919年（大正8年）6月25日
資 本 金　20,644百万円
従業員数　1,660名（連結）846名（単体）

ユアサ　グローバルネットワーク

■駐在員事務所　○現地法人

取締役及び監査役

代表取締役社長	佐藤　悦郎
代表取締役専務取締役 経営管理部門統括 兼 地域グループ担当 兼 輸出管理委員会委員長 兼 倫理・コンプライアンス委員会委員長 兼 内部統制委員会委員長	澤村　和周
専務取締役 工業マーケット事業本部長 兼（株)国興代表取締役会長	鈴木　通正
常務取締役 経営管理部門副統括 兼 財務部長	宮崎　明夫
常務取締役 海外事業推進担当 兼 ファクトリーソリューション本部長	田村　博之
常務取締役 住環境マーケット事業本部長 兼 建設事業統括 兼 ユアサプライムス(株)代表取締役会長	白井　良一
取締役 建設マーケット事業本部長	松平　義康
取締役 関連事業部長	水町　一実
取締役 機械エンジニアリング本部長	佐野木晴生
取締役（社外）	灰本　栄三
監査役（常勤）	井上　　明
監査役（常勤）	土屋　史郎
監査役（社外）	小田嶋清治
監査役（社外）	鶴田　　進

（注）社外取締役を除く全取締役は執行役員を兼務しております。

株式の状況

発行可能株式総数…… 400,000,000株
発行済株式総数…… 231,558,826株
（自己株式12,073,551株を含む）
株主数…… 14,770名

大株主（上位10名）

株主名	持株数（千株）	持株比率（%）
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	16,744	7.62
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	7,463	3.40
ユアサ炭協持株会	6,752	3.07
東部ユアサやまずみ持株会	5,956	2.71
西部ユアサやまずみ持株会	5,947	2.70
株式会社三井住友銀行	5,943	2.70
株式会社森精機製作所	5,849	2.66
ダイキン工業株式会社	4,520	2.05
TOTO株式会社	4,080	1.85
オークマ株式会社	3,981	1.81

1.千株未満は切り捨てて表示しております。
2.持株比率については、自己株式を控除して算出し小数点第3位以下は切り捨てて表示しております。
3.当社は自己株式12,073千株を保有しておりますが、上記の大株主から除いております。
4.上記信託銀行持株数のうち、当該信託銀行の信託業務に係る株式数は、次のとおりであります。
　日本トラスティ・サービス信託銀行（株）　16,744千株
　日本マスタートラスト信託銀行（株）　7,463千株
5.株式会社森精機製作所は、平成25年10月1日にDMG森精機株式会社に商号変更しております。

拝見！

湯淺七左衛門商店 東京店

この写真は、約40年前(1970年代)に製作された当社本社本館の敷地に建つ明治20年頃の社屋模型です。「大阪市立住まいのミュージアム 大阪くらしの今昔館」に寄託していたものを返還いただき、色付けと往来の人形を配置し、リニューアルいたしました。当時の通油町(現中央区日本橋大伝馬町)は、呉服、小間物、金物等の大問屋が立ち並び、明治15年に開通した馬車鉄道が当社店先の大通りを走っており、銀座と同じくらいの賑わいがあったと推測できます。

単元未満株式(1,000株未満の株式)をお持ちの株主さまへ

当社株式は、証券市場での取引は1,000株(1単元)単位となっており、単元未満株式(1～999株)を証券市場で売買することはできません。当社は単元未満株式の買増制度を導入いたしております。この制度は、1単元(1,000株)に不足する株式を買増して、1,000株単位にまとめることができるというものです。また、1,000株に満たない株式を当社で買取らせていただく単元未満株式の買取制度につきましても、これまでどおりご利用が可能です。

また、単元未満株式の買取・買増にかかる手数料は無料となっておりますので当制度のご利用をご検討ください。ただし、証券会社において取次手数料などがかかる場合がございますのでお取引の証券会社にお問い合わせください。

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL.0120-232-711(通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所　市場第一部
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.yuasa.co.jp/ir/index.html (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

ご注意

(1) 株主さまの住所変更、単元未満株式の買取請求・買増請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。

(2) 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。

YUASA ユアサ商事株式会社

FSC www.fsc.org ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C022915

MOODY INTERNATIONAL UKAS ISO14001:2004 認証取得

VEGETABLE OIL INK
この報告書は植物油インキを使用して印刷しています。